

碧 水

第97号

平成13年(2001年)10月

静岡県水産試験場

〒425-0033 焼津市小川汐入 3690

T E L (054)627-1815

F A X (054)627-3084

第21回全国豊かな海づくり大会特集号

ごあいさつ

静岡県水産試験場長 和田 卓

21世紀最初の年の「全国豊かな海づくり大会」を焼津港で開催し、全国の水産関係者ならびに多くの一般の方をお迎えすることは、我々地元水産試験場にとっても喜ばしいことです。

水産試験場では今回の「全国豊かな海づくり大会」にあたり、テーマ館の中で静岡県の水産業の歩みを過去・現在・未来に分けて展示を行っています。過去からの積み重ねの上に、21世紀に我々が目指す新しい静岡県の水産業の姿をメッセージとして来館した皆様に受け取っていただけたら幸いです。



テーマ館では水産試験場が行っている研究・事業を紹介しています。ここではその展示内容の一部を紹介します。

豊かな海を目指して…



栽培漁業の推進

栽培漁業とは、生き残りの悪い稚魚の間を人間が管理することにより、資源を増大させる手法で、種苗の放流、稚魚の保護場の造成、漁獲魚の大きさの管理等が行われます。

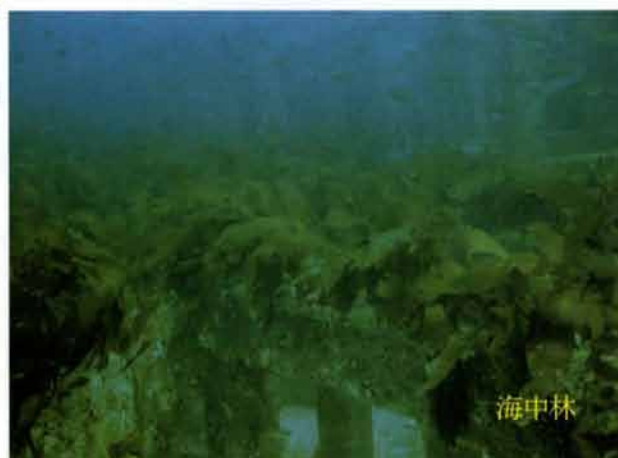
マダイやクルマエビの栽培漁業では着実に成果を挙げ、現在では漁業者自らによる放流が行われています。

また、近年では静岡特産種としてタカアシガニやクエの種苗生産技術開発に力を入れています。

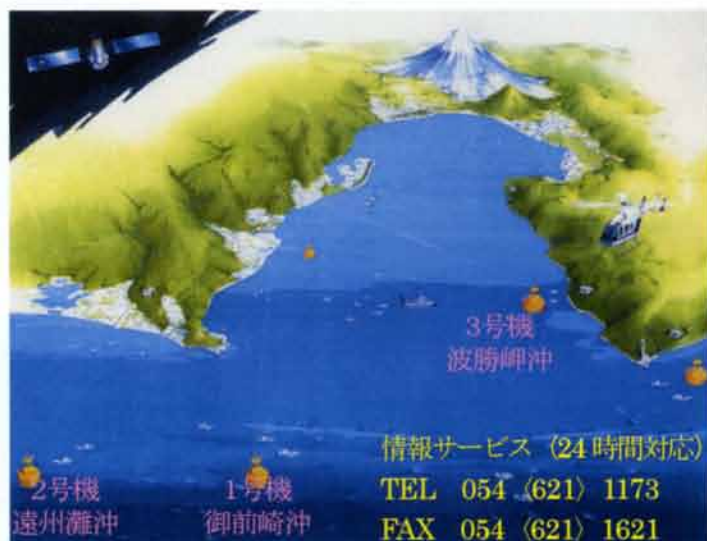
藻場の再生

陸上に森林があるように、海の中にも森林があり、それらを藻場と呼びます。中でもカジメ、アラメ、サガラメで構成されているものを海中林といい、海中林の生産力は熱帯林に匹敵すると言われています。

この海中林が突然枯れて無くなってしまふ現象を磯焼けと言います。磯焼けになると海藻や貝類等が減少し、甚大な漁業被害となると共に、自然環境保全の面からも深刻な問題となっています。



海のIT革命



しずおかマリンロボシステム

陸上に比べ把握が難しい、海の気象や水温などの情報を、多くの漁業者や県民の方々が、電話やファクシミリを使って、リアルタイムで利用できるシステムです。

マリンロボ（観測ブイ）は全部で5基設置の予定で、現在3基が設置されています。情報サービスを開始した平成10年10月以降、1日100件程度の情報アクセスがあるなど、多くの方々から利用されています。

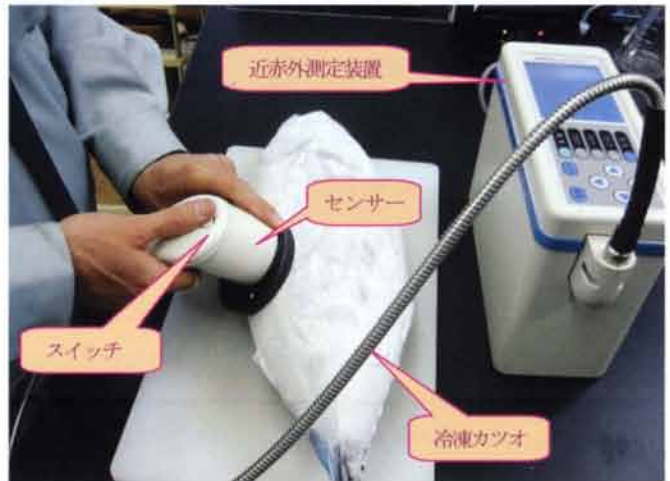
新しい技術の導入

水産物の品質の非破壊測定

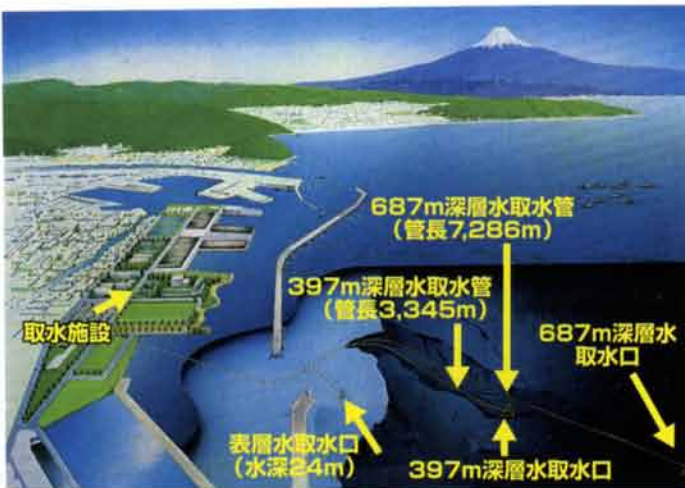
カツオ・マグロなど、魚の脂の乗り(脂肪量)は鮮度と並ぶ重要な品質項目です。

しかし、今までは魚の脂の乗りを確実に知るためには魚に傷を付ける必要がありました。

そこで、水産試験場では光(近赤外線)を使って魚に傷を付けることなく正確に脂の乗りを測定する機械を開発しました。



駿河湾深層水の利用



駿河湾は最深部の水深が 2,500mを超える日本一深い湾で、表層水のほか、黒潮系、亜寒帯系、太平洋深層水という3種類の深層水からなる多層の海洋構造を持つ世界的にも特異な湾です。

県では 397mと 687mの2層から日量各 2,000トンの深層水を取水する施設を整備しました。

現在、深層水の特性・利用については水産試験場が中心となってプロジェクトを組んで研究を進めています。さらに今後、深層水利用研究施設の整備も行われる予定であり、各方面で深層水が利用されることが期待されます。



駿河湾深層水の取水供給施設が焼津港内に完成し、9月19日より一般に向けた給水が開始されました。給水開始当日は県知事を迎えての給水開始式の後、一般への給水が始まり、初日だけで約400人の人が訪れました。

今後1年間の試験給水期間中は、無料で利用できますが、製品の販売等は制限されます。

今後の給水は、11月7日より毎週水曜日の10時～15時まで行われます。

詳しくは《静岡県水産振興室》054(221)2695までお問い合わせください。

漁業士インタビュー

今回の海づくり大会式典で、静岡の漁業後継者を代表して誓いの言葉を述べられる焼津市の原田眞治・裕子夫妻にお話を伺いました。原田さんは県漁業士会の副会長でもあります。

(家族を教えてください)

父母と子供が3人います。

(漁業を始められたきっかけは?)

家が代々漁業をしており、私で4代目です。今はシラス船曳きと採貝藻を営んでいます。

(漁業の魅力は?)

自然を相手にしていることと努力が直接目に見える形(水揚げ)になることで得られる充実感ですね。

(漁業をしていて、今までで一番印象に残っていることは?)

2トンも獲れた時のことですね。たくさん獲れば値も下がってしまうんですが、漁師は単純だから大漁になれば興奮しますし、その時の興奮は忘れられないですね。

(ところで5代目はどうですか?)

一番下が息子ですが、まだ漁業を継ぐかどうかわかりません。生業とするには相応の収入が必要ですが、現在の漁業の状況は厳しいものがあり、子供に薦められるかどうか分かりません。しかし、子供が漁業を続けられる様、道筋をつけるため色々挑戦していきたいと思います。



調査船の動き (7~9月)



富士丸

6月25日~7月24日 (30日間)

本州東方沖合ピンナガ漁場調査
(焼津水産高校専攻科生徒実習)

8月23日~9月17日 (26日間)

本州東方沖合ピンナガ漁場調査
(焼津水産高校専攻科生徒実習)

9月27日~10月19日 (23日間)

マリアナ海域カツオ漁場調査
(漁業高等学園生徒実習)



駿河丸

7月 地先観測 (駿河湾・遠州灘)

サクラエビ調査 (田子の浦・富士川沖)
駿河湾深層水調査
サバ標識放流調査 (石花海~小台場)

8月 地先観測 (駿河湾・遠州灘)

サクラエビ調査 (田子の浦)
トラフグ漁期前調査 (相良沖)

9月 地先観測 (駿河湾・遠州灘)

サクラエビ調査 (焼津沖)
トラフグ漁期前調査 (浜岡・福田沖)
深層水調査

10月28日 豊かな海づくり大会会場にて富士丸・駿河丸の一般公開を実施します。